

美術科学習指導案

日 時 令和5年12月19日（火）校内研
 学 級 岩手大学教育学部附属中学校
 2年A組 35名
 会 場 美術室
 授業者 佐藤 陽

1 題材名 暮らしに息づくパブリックアート

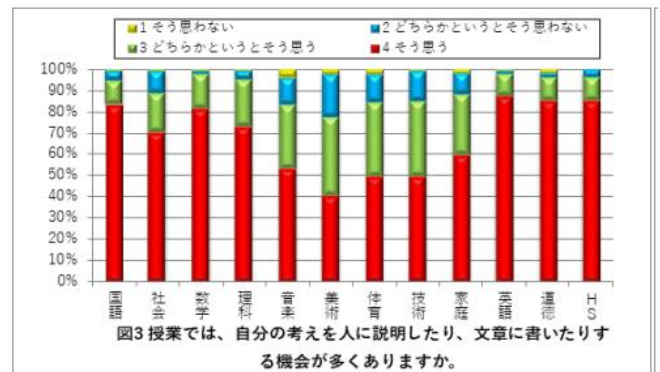
2 題材について

(1) 生徒観

【表1】は本校で7月に行われた全校生徒対象の授業アンケートのうち、「授業では、自分の考えを人に説明したり、文章に書いたりする機会が多くありますか。」の項目の2学年を抜粋したものである。この項目に対して「そう思う」の割合が約4割、「どちらかというと思う」を含めても8割を切る結果となった。これまでの授業では言葉を使って発想を広げる時間、鑑賞では自身の作品について言葉で考えをまとめたり交流をしたりする時間を設けていた。しかし、構想や制作では長時間自分で作業を進めるだけで意図的に交流させたり文章を書かせたりする場面を設定していなかった。言語活動や交流が作品制作と直結せず、交流や鑑賞によって作品がよくなるということを実感させられなかったことが反省点である。

この実態から、作品制作の場面でも言語を使った対話や協働の機会を設定することで、生徒間でのやり取りの中で良いところを認め合ったり、改善点を見つけたりして作品がよりよくなるとともに、自分の表現に自信をもって活動できるようになると考えている。

表1 本校授業アンケート（2学年）



(2) 題材観

本題材は、学習指導要領第2、3学年の目標（2）「自然の造形や美術作品などのよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能と洗練された美しさとの調和、美術の働きについて独創的・創造的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする」ことを主なねらいとし、〔共通事項〕の内容にあたる形や色彩の性質、それらがもたらす効果を理解して表現や鑑賞の活動に関連付けながら、彫刻作品について学習を行っていく。

本題材では、公共の場に設置されている美術作品であるパブリックアートの構想と粘土によるクレイモデルの制作を行う。自ら生み出した主題を形と色彩を工夫して表現するとともに、テーマを伝えたい対象と適した設置場所を考えることで、地域や社会における美術の働きを考えさせていきたい。生徒は地域課題や社会問題などから生まれた主題に適した設置場所を決める場合と、場所から感じたことや考えたことを基に、その場所に適した主題を生み出す場合がある。設置場所というパブリックアートならではの視点を加えることで、形や色彩といったこれまでの既習事項を活用しながら社会における美術の働きについてより深く考えて表現させていきたい。その際、ただ自分が好きなものを見せたいだけのものや、特定の対象をただ批判するだけのよう公共の場にそぐわないテーマを発想する場合が考えられる。設置場所を巡って実際に裁判になった事例を紹介したり、4人グループでの中間発表といったグループワークを取り入れたりすることで、生徒の主題を尊重しながら他者意識も取り入れて制作を進めていく。またタブレットを活用してアイデアスケッチを設置場所の写真と合成することで、実際の作品を設置した時のイメージをもたせていきたい。

(3) 教科研究との関わり（指導観）

本校美術科においては、育成を目指す資質・能力を下記の通り整理する。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
対象や事象を捉える造形的な視点を理解するとともに、主題や場面に合った表現方法を生徒一人ひとりが追求して創造的に表す力。	感じ取ったことや考えたこと、目的や条件などを基に主題を生み出すとともに、対象の内面や本質を深く見つめたり捉えなおしたりしながら豊かに発想し構想を練る力。	多様な他者の考えを受容しながら協働して学びを深めるとともに、よりよい表現を目指して工夫改善を行いながら自律的に学習活動に取り組む態度。

上記資質・能力を育成するために、以下の視点から指導を工夫する。

○研究の視点① 個別最適な学びと協働的な学び

文部科学省の次期教育振興基本計画の資料【図1】ではウェルビーイングの向上について、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素があり、両者を調和ある形で一体的に向上させていくことが示されている。これらの実現に向けて美術科の学びのなかで、個人の感覚や思いに価値を見出して主題を生み出し、それらに合った表現方法を生徒主体で追求できる場面（個別最適な学び）を設けることによって獲得的な要素、他者との対話などによって協働して学びを深められる場面（協働的な学び）を取り入れることで、ウェルビーイングの向上を図っていく。

本題材では主題設定や作品の設置場所、表現の方法などに幅をもたせ、自己決定できる機会を増やすことで個別最適な学びを実現し、題材そのものに社会性を含ませるとともに考えを共有して互いに作品をよくし合う機会を設定することで協働的な学びを実現していきたい。

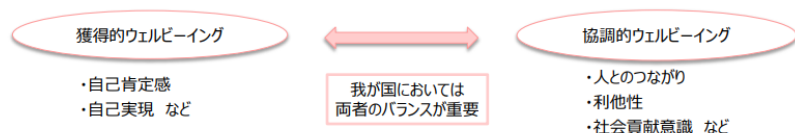


図1 次期教育振興基本計画
「ウェルビーイングの向上について」
(文部科学省)

○研究の視点③ STEAM教育の「A（リベラルアーツ）」の在り方に基づいた題材設定

STEAM教育の「A」については国際的にみても定義が様々あるが、文部科学省はこの「A」について「STEAM教育等の各教科等横断的な学習の推進について」のなかで、「芸術、文化のみならず、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲（リベラルアーツ）」と定義している。

知識と技能があれば上手な絵を描くことはできるかもしれないが、それだけではなく自分なりの考えや思い、生活や社会の様相から感じていることなど、人間がもっている感性が何か対象や事象をきっかけに働き作品に加わることで、その人にしか作れない唯一のものが生まれる。その感性を働かせながら価値を見出すためのきっかけをリベラルアーツの要素とし、題材設定に取り入れていきたい。

本題材ではパブリックアートの特性を生かし、「生活や社会とのつながり」をリベラルアーツの要素として生徒の感性を働かせていく。自分が住んでいる地域や社会をもっとよくしたい、生活していて感じていることを伝えたい、などの視点で主題を生み出し作品にさせることで、自分の感性が働いて生まれたものが日常生活や社会にとって価値のあるものだ実感させていきたい。

3 題材計画

(1) 題材の目標

【知識及び技能】

- ・形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解するとともに、材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じ表現し、制作の順序などを考えながら見通しをもって表すことができる。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・自己の内面や社会の様相などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。
- ・身近な環境の中に見られる造形的な美しさを感じ取り、自然や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・美術の創造活動の喜びを味わい、意図に応じて工夫し見通しを持って表したりする表現の学習活動に取り組むことができる。
- ・美術の創造活動の喜びを味わい、造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める鑑賞の活動に取り組むことができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。 技 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じ表現し、制作の順序などを考えながら見通しをもって表している。	思 自己の内面や社会の様相などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 鑑 身近な環境の中に見られる造形的な美しさを感じ取り、自然や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めている。	態表 美術の創造活動の喜びを味わい、意図に応じて工夫し見通しを持って表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい、造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める鑑賞の活動に取り組もうとしている。

(3) 指導と評価の計画 (13時間) ◎総括的評価

時	●学習のねらい・学習活動	知・技	思	態	見取りの視点【評価方法】
1	●美術と地域社会との関わりについて考える。 ・既存のパブリックアートを鑑賞し、美術と地域社会の関わりについて考える。		鑑	態鑑	社会を美しく豊かにする美術の働きについて考え見方や感じ方を深めている。【振り返り記述】
2	●主題を生み出す。 ・地域社会との関わりを基に発想し主題を生み出す。		発	態表	地域社会との関わりを考えて主題を生み出している。【ワークシート】
3	●主題を基に構想を練る。 ・形や色彩を工夫して表現する構想を練る。		発 ◎	態表 ◎	創造的な構成を工夫し、表現する構想を練っている。【アイデアスケッチ】
4 5	●立体で作品を構想する。 ・アイデアを粘土で実現できるよう、針金などの素材を駆使して作品が自立するように構造を考える。	技 ◎			制作の順序などを考えながら見通しを持って構造を考えている。【作品、振り返り記述】
6	●形、質感を再考する。 ・主題をより表現するために形、質感の視点でアイデアを再考する。	知			形や質感が与える印象について理解している。【ワークシート、作品】
7	●色、設置場所を再考する。 ・主題をより表現するために色の視点でアイデアを再考する。 ・背景を合成して設置イメージを持つ。	知			色彩が与える印象や設置場所との関係について理解している。【ワークシート】
8 本時	●中間発表を通じて自分に必要な表現について考える。 ・グループで協働して作品をよりよくするために必要なことを考える。		発		創造的な構成を工夫し、表現する構想を練っている。【ワークシート、振り返り記述】
9 10	●表現方法を工夫して成型する。 ・主題に合わせて形や質感を工夫して粘土で表現する。	技			素材や用具の特性を生かして制作を進める。【作品】
11 12	●表現方法を工夫して着色する。 ・主題に合わせて色彩や塗り方を工夫して絵具で表現する。	技			色彩の性質や用具の特性を生かして制作を進める。【作品】
13	●完成した作品を鑑賞する。 ・お互いに作品を鑑賞しあい、感じたことや考えたことを交流する。		鑑 ◎	態鑑 ◎	他者の作品を鑑賞して見方や感じ方を深めている。【ワークシート】
	《授業外：題材終了後》	知・技 ◎	発 ◎	態表 ◎	知・技形や色彩の性質を理解して表現している【完成作品、ペーパーテスト】 発パブリックアートの特性を理解して主題を表現している。【ワークシート、完成作品】 態表主題に応じて工夫し見通しを持って表現しようとしている。【ワークシート、振り返り記述】

4 本時について

(1) 指導目標

形、色合い、設置場所の3つの視点を基に、表現をよりよくするために今の自分に必要な表現は何か考え制作に取り組ませる。

(2) 評価規準

3つの視点を基に表現を見直し、他者と協働して表現を改善しあうなどして、自身の表現を形や色彩、技法などと主題の関係について根拠をもって理解を深めるとともに、表現に生かそうとしている。

【思考・判断・表現】

(3) 授業構想

本時はこれまで構想してきたアイデアスケッチと制作途中の作品本体を見せ合いながら、更に表現をよりよくするために自分に必要なことは何か考え、今後の表現に生かしていく活動を行う。授業時数は題材全体の間まで差し掛かっており、クレイモデルも大まかな形が出来上がっている生徒もいる。一方で、粘土で造形する過程で当初構想していたスケッチから大きく変化が生まれたり、それによって迷いが生じたりする生徒もいる。題材初期に自身が考えていたことや変化、迷いも大切にしながら、今からでもよりよくできることはないかとグループワークを通じて深く考えさせることで、自分の生み出した主題や表現方法により自信を持たせて残りの制作に取り組ませていきたい。

導入では、これまでの活動の振り返りをするとともに、実際に設置されているパブリックアートの事例を紹介することで、意見交流をする意義を理解させる。

展開では4人グループで互いに作品とワークシートを見せ合いながら改善点を見つけていく。教師の参考作品を例にグループワーク全体の流れと、作品をよりよくするための視点を確認していく。またその時に出た改善点や新たな発想はワークシートに色を変えて付け加えていき、グループでの活動の成果が可視化できるように記録していく。後半には個人やグループごとに活動を選択できる時間を設け、それぞれの進捗状況に応じた活動を行えるようにする。

終末では本時でのグループワークの成果を振り返り記録をして、次回以降の制作により生かせるようにさせる。

(4) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	指導上の留意点および評価 ・指導の留意点 ○評価
導入 7	1. これまでの活動を確認する。 (1) 形・色・設置場所の3つの視点について確認する。 (2) 実在するパブリックアートを例に、作品について交流する必要性を考える。 2. 学習課題を設定する。	・3つの視点を基に、美術の見方考え方を生かしてきたことを振り返らせる。
	中間発表を通じて、自分に必要な表現について考え制作に生かす。	
展開 35	3. グループワークの見通しをもつ。 (1) 教師の参考作品を例に、グループワークを進めるうえで必要な視点を確認する。 4. グループワークを行う。 (1) 4人グループでアイデアを発表しあう。 (2) そのアイデアに対して改善点や疑問点などの意見を交流する。 (3) 新たに出たアイデアをワークシートに加える。 4. 個人かグループでの活動を行う。 【個人】 ・グループワークで出た意見をさらに自分で練り直す。 →ワークシートへの記入 →アイデアスケッチの改善 ・グループワークで出た意見を基に制作に取り組む。 【グループ】 ・グループワークを続ける。	・教師の参考作品を例に、どのような視点でグループワークを進めていけばよいか見通しを持たせる。 ・話し合いがうまく進まないグループには状況に応じて教師が問いかけや助言を行う。 ・新たに出たアイデアをロイロノートのワークシートに記入させる。その時、前時までと文字の色を変えさせて、変容が見とれるようにさせる。  ・活動の内容を個人やグループで選択させる場面を与える。
終末 8	6. 本時の学習の振り返りを行う。 (1) 振り返りを記入する。 (2) ワークシートを提出する。 (3) 提出した人から片付けをする。	○他者と協働で表現を見直したり改善したりしようとして考えたことを記述し、表現に生かそうとしている。【思考・判断・表現】